

## 令和 6 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 図書館活動における功績
2. 対象者 東京学芸大学附属図書館(Möbius Open Library ラボ)
3. 件名 学芸大デジタル書架ギャラリーの構築と展開
4. 結果 採択
5. 理由 <p>本件は、書架画像をデジタル化して公開し、ウェブ上でのブラウジングを可能にすることにより、図書館という「場」の機能のデジタル化を試みた取り組みである。この取り組みは、東京学芸大学附属図書館と同大 Explayground 推進機構の協働のプロジェクトとして展開されている。Explayground 推進機構は、多様な参加者が主体的に自分の興味や面白さを感じるもの、課題などを持ち寄り、「LAB(ラボ)」と呼ぶプロジェクトを作って活動する機構であり、同図書館は、知の未来について考える「Möbius Open Library ラボ」として参画している。</p> <p>本事業は、コロナ禍で来館サービスが制限される状況下、貸出・入館データの分析結果から、利用者はOPAC検索だけでは必要な本を特定できていないのではという気付きを得、着想から約3週間という短期間で、来館せずともオンラインで書架のブラウジングを可能にするという、ありそうでなかったユニークなサービスを他館に先駆けて実現している。また、静止画像を並べた静的なウェブページだけでなく、書架を3次元で表現して操作性を持たせた「3D 書架」を公開し、空中に表示される分類見出しのようなバーチャルなナビゲーションやOPACとの相互連携等の利便性を兼ね備え、単にコロナ禍の補完サービスに止まらない、物理的な「場所」や「時間」に制約されない図書館という「場」の機能のデジタル化の取り組みとなっている。</p> <p>加えて、背表紙の画像データをCCBYライセンスを付与したオープンデータとして公開したこと、画像のメタデータをLinked Open Dataという自由に再利用できるオープンデータ形式で公開したことは先進的な取り組みと言える。さらに、附属学校のデジタル書架ギャラリー公開による学校図書館への展開、南山大学、京セラコミュニケーションシステムと共同契約を結んだ研究開発による、学校司書支援データベース「BookReach」への応用を行うなど、発展性のある取り組みを継続して展開しており高く評価できる。</p> <p>以上のことから、本件は、ビジョン2025「知の創出:新たな知を紡ぐ〈場〉の提供」の実現に資する先進的な取り組みであり、図書館の利用に関して有効な手段となるツール(tool)の作成により、利用者に多大の便宜をもたらすとともに、その専門性、正確性、普遍性等において高い意義を有するものと認められ、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第2号及び第4号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。なお、本事業が継続して実施され、さらにその成果が他の図書館等に共有・還元されることで、デジタル・ライブラリー実現に貢献することを期待する。</p>

